

① シングルファイルボリュームのファイル構造

コントロール レコード	ファイル管理番号：1
	ボリューム通番：0
	レコード番号：1
データレコード	レコード番号：2
データレコード	レコード番号：3
データレコード	.
データレコード	.
データレコード	レコード番号：99
エンドレコード	レコード番号：100
ファイル	

シングルファイルボリューム

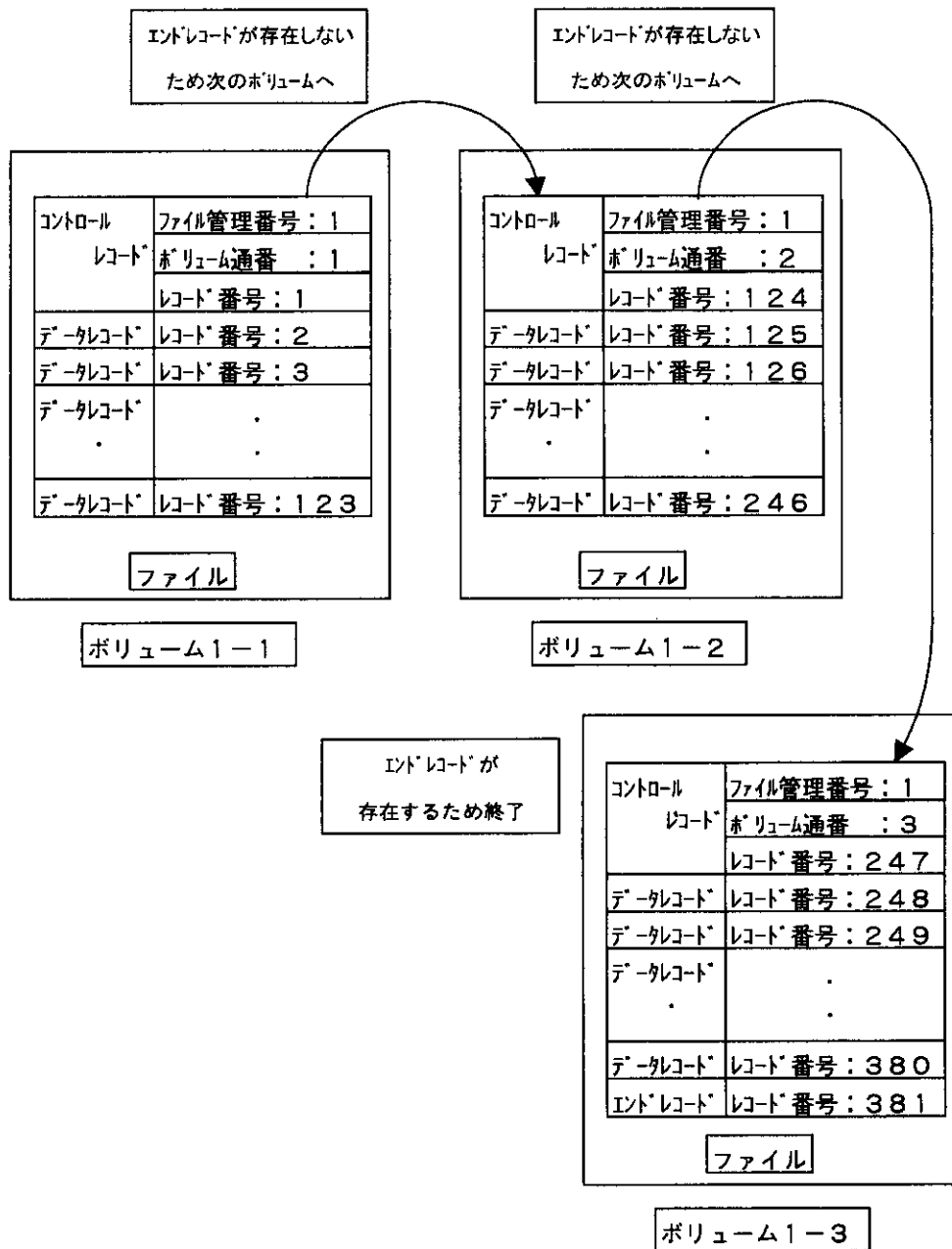
② マルチファイルボリュームのファイル構造

コントロール レコード	ファイル管理番号：1	コントロール レコード	ファイル管理番号：1	コントロール レコード	ファイル管理番号：1
	ボリューム通番：0		ボリューム通番：0		ボリューム通番：0
	レコード番号：1		レコード番号：1		レコード番号：1
データレコード	レコード番号：2	データレコード	レコード番号：2	データレコード	レコード番号：2
データレコード	レコード番号：3	データレコード	レコード番号：3	データレコード	レコード番号：3
データレコード	.	データレコード	.	データレコード	.
データレコード	.	データレコード	.	データレコード	.
データレコード	レコード番号：38	データレコード	レコード番号：81	データレコード	レコード番号：73
エンドレコード	レコード番号：39	エンドレコード	レコード番号：82	エンドレコード	レコード番号：74
ファイル		ファイル		ファイル	

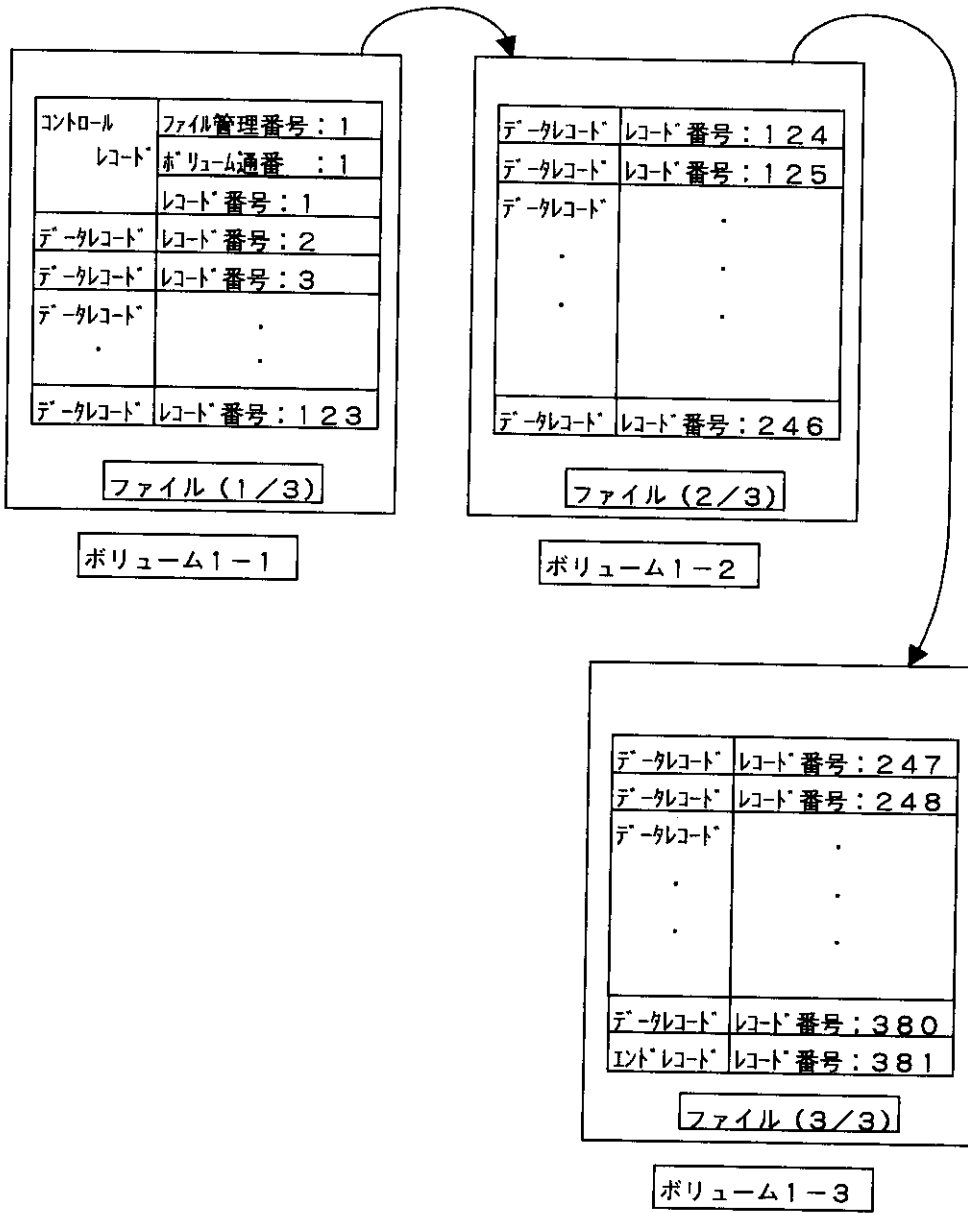
マルチファイルボリューム

③ マルチボリュームファイルのファイル構造

・フロッピーディスク及びMOの場合



・MTの場合



(5) MTラベル形式

交換情報を格納するMTは以下のラベル形式(JIS X0601に準拠)をもつ。

① シングルファイルボリュームのラベル形式

1つのファイル

ボリューム 見出し ラベル (VOL 1)	ファイル 見出し ラベル1 (HDR 1)	ファイル 見出し ラベル2 (HDR 2)	TM	データ部	TM	ファイル 終わり ラベル1 (EOF 1)	ファイル 終わり ラベル2 (EOF 2)	TM	TM
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----	------	----	--------------------------------	--------------------------------	----	----

TM: テープマーク

② マルチファイルボリュームのラベル形式

1つ目のファイル

ボリューム 見出し ラベル (VOL 1)	ファイル 見出し ラベル1 (HDR 1)	ファイル 見出し ラベル2 (HDR 2)	TM	データ部	TM	ファイル 終わり ラベル1 (EOF 1)	ファイル 終わり ラベル2 (EOF 2)	TM
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----	------	----	--------------------------------	--------------------------------	----

(1つのボリューム内)

ファイル 見出し ラベル1 (HDR 1)	ファイル 見出し ラベル2 (HDR 2)	TM	データ部	TM	ファイル 終わり ラベル1 (EOF 1)	ファイル 終わり ラベル2 (EOF 2)	TM	TM
--------------------------------	--------------------------------	----	------	----	--------------------------------	--------------------------------	----	----

最後のファイル

③ マルチボリュームファイルのラベル形式

1つのファイル

ボリューム 見出し ラベル (VOL 1)	ファイル 見出し ラベル1 (HDR 1)	ファイル 見出し ラベル2 (HDR 2)	TM	データ部	TM	ボリューム 終わり ラベル1 (EOV 1)	ボリューム 終わり ラベル2 (EOV 2)	TM	TM
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----	------	----	---------------------------------	---------------------------------	----	----

・ (複数のボリューム)

1つのファイル (続き)

ボリューム 見出し ラベル (VOL 1)	ファイル 見出し ラベル1 (HDR 1)	ファイル 見出し ラベル2 (HDR 2)	TM	データ部	TM	ファイル 終わり ラベル1 (EOF 1)	ファイル 終わり ラベル2 (EOF 2)	TM	TM
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----	------	----	--------------------------------	--------------------------------	----	----

※最後のボリュームのみラベル形式が異なる。

・ボリューム見出しラベル(VOL1)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“VOL1”を設定
2	ボリューム識別名	英数	6	ボリュームの識別名を左詰で設定
3	ボリュームアクセス条件	英数	1	スペース(制限無し)を設定
4	予備	英数	13	スペースを設定
5	処理システム識別名	英数	13	本システムでは使用しないためスペースを設定
6	所有者識別名	英数	14	本システムでは使用しないためスペースを設定
7	予備	英数	28	スペースを設定
8	ラベル規格番号	英数	1	本システムでは使用しないためスペースを設定

・ファイル見出しラベル1(HDR1)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“HDR1”を設定
2	ファイル識別名	英数	17	ファイルの識別名を左詰で設定
3	ファイルセット識別名	英数	6	ボリュームの識別名を左詰で設定
4	ファイル分割番号	数字	4	複数ボリューム内でのボリュームの通番を0001～9999で設定
5	ファイル順序番号	数字	4	ボリューム内のファイルの通番を0001～9999で設定
6	世代番号	数字	4	本システムでは使用しないためスペースを設定
7	世代更新番号	数字	2	本システムでは使用しないためスペースを設定
8	作成日付	数字	6	ファイルの作成日を以下の形式で設定 1900年代: “_yyddd” (_:半角スペース) 2000年代: “0yyddd” (0:半角ゼロ) yy :西暦年の下2桁を数字00～99で設定する ddd:年間を通した通算の日付を1月1日を001とした数字001～366で設定する (例)2000年4月1日の場合、000092を設定する
9	満了日付(有効期限日)	数字	6	本システムでは使用しないため任意の値を設定
10	ファイルアクセス条件	英数	1	スペース(制限無し)を設定
11	ブロック数	英数	6	000000を設定
12	処理システム識別名	英数	13	本システムでは使用しないためスペースを設定
13	予備	英数	7	スペースを設定

・ファイル見出しラベル2(HDR2)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“HDR2”を設定
2	レコードフォーマット	英数	1	“F”(固定長レコード形式)を設定
3	ブロック長	数字	5	ブロック長をレコード長の整数倍で00001～32000で設定
4	レコード長	数字	5	論理レコード長を00001～32000で設定
5	記録密度	英数	1	書き込み密度を設定 3:1600bpi 4:6250bpi
6	データセットポジション	英数	1	0を設定

項番	項目	属性	バイト数	内容
7	ジョブ/ジョブステップ標識	英数	17	本システムでは使用しないためスペースを設定
8	テープ記録方式	英数	2	本システムでは使用しないためスペースを設定
9	印刷制御コード	英数	1	スペースを設定
10	予備	英数	1	スペースを設定
11	ブロック属性	英数	1	ブロック化の有無を設定 スペース：ブロッキングしていない “B”：ブロッキングしている
12	予備	英数	41	スペースを設定

・ファイル終わりラベル1(EOF1)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“EOF1”を設定
2	ファイル識別名	英数	17	ファイルの識別名を左詰で設定
3	ファイルセット識別名	英数	6	ボリュームの識別名を左詰で設定
4	ファイル分割番号	数字	4	複数ボリューム内でのボリュームの通番を0001～9999で設定
5	ファイル順序番号	数字	4	ボリューム内のファイルの通番を0001～9999で設定
6	世代番号	英数	4	本システムでは使用しないためスペースを設定
7	世代更新番号	英数	2	本システムでは使用しないためスペースを設定
8	作成日付	数字	6	ファイルの作成日を以下の形式で設定 1900年代：“_yyddd” (_:半角スペース) 2000年代：“0yyddd” (0:半角ゼロ) yy : 西暦年の下2桁を数字00～99で設定する ddd : 年間を通した通算の日付を1月1日を001とした数字001～366で設定する (例)2000年4月1日の場合、000092を設定する
9	満了日付(有効期限日)	数字	6	本システムでは使用しないため任意の値を設定
10	ファイルアクセス条件	英数	1	スペース(制限無し)を設定
11	ブロック数	数字	6	ファイルに格納されているブロック数を000001～999999で設定
12	処理システム識別名	英数	13	本システムでは使用しないためスペースを設定
13	予備	英数	7	スペースを設定

・ファイル終わりラベル2(EOF2)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“EOF2”を設定
2	レコードフォーマット	英数	1	“F”(固定長レコード形式)を設定
3	ブロック長	数字	5	ブロック長をレコード長の整数倍で00001～32000で設定
4	レコード長	数字	5	論理レコード長を00001～32000で設定
5	記録密度	英数	1	書き込み密度を設定 3:1600bpi 4:6250bpi
6	データセットポジション	英数	1	0を設定

項番	項目	属性	バイト数	内容
7	ジョブ/ジョブステップ標識	英数	17	本システムでは使用しないためスペースを設定
8	テープ記録方式	英数	2	本システムでは使用しないためスペースを設定
9	印刷制御コード	英数	1	スペースを設定
10	予備	英数	1	スペースを設定
11	ブロック属性	英数	1	ブロック化の有無を設定 スペース：ブロッキングしていない “B”：ブロッキングしている
12	予備	英数	41	スペースを設定

・ボリューム終わりラベル1(EOV1)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“EOV1”を設定
2	ファイル識別名	英数	17	ファイルの識別名を左詰で設定
3	ファイルセット識別名	英数	6	ボリュームの識別名を左詰で設定
4	ファイル分割番号	数字	4	複数ボリューム内でのボリュームの通番を0001～9999で設定
5	ファイル順序番号	数字	4	ボリューム内のファイルの通番を0001～9999で設定
6	世代番号	英数	4	本システムでは使用しないためスペースを設定
7	世代更新番号	英数	2	本システムでは使用しないためスペースを設定
8	作成日付	数字	6	ファイルの作成日を以下の形式で設定 1900年代：“_yyddd” (_:半角スペース) 2000年代：“0yyddd” (0:半角ゼロ) yy :西暦年の下2桁を数字00～99で設定する ddd:年間を通した通算の日付を1月1日を001とした数字001～366で設定する (例)2000年4月1日の場合、000092を設定する
9	満了日付(有効期限日)	数字	6	本システムでは使用しないため任意の値を設定
10	ファイルアクセス条件	英数	1	スペース(制限無し)を設定
11	ブロック数	数字	6	ファイルに格納されているブロック数を000001～999999で設定
12	処理システム識別名	英数	13	本システムでは使用しないためスペースを設定
13	予備	英数	7	スペースを設定

・ボリューム終わりラベル2(EOV2)

項番	項目	属性	バイト数	内容
1	ラベル標識	英数	4	“EOV2”を設定
2	レコードフォーマット	英数	1	“F”(固定長レコード形式)を設定
3	ブロック長	数字	5	ブロック長をレコード長の整数倍で00001～32000で設定
4	レコード長	数字	5	論理レコード長を00001～32000で設定
5	記録密度	英数	1	書き込み密度を設定 3:1600bpi 4:6250bpi
6	データセットポジション	英数	1	0を設定

項番	項目	属性	バイト数	内容
7	ジョブ/ジョブステップ標識	英数	17	本システムでは使用しないためスペースを設定
8	テープ記録方式	英数	2	本システムでは使用しないためスペースを設定
9	印刷制御コード	英数	1	スペースを設定
10	予備	英数	1	スペースを設定
11	ブロック属性	英数	1	スペースを設定
12	予備	英数	41	スペースを設定

(6) 文字コード

① JISコード

次の文字コード規格に準拠する。

JIS X0201

JIS X0202

JIS X0208-1997

JIS X0212-1990

② シフトJISコード

Windows標準で使用されているコード体系(JIS X0208の漢字文字集合を未使用領域にシフトさせたコード体系)に準拠する。

③ 外字

交換情報の被保険者等名及び住所の項目に外字が含まれる場合は、外字部分の文字コードをシフトJISの外字コードに変換して格納する。

ただし、審査支払等システムでは全ての外字を取り扱い対象外とするため、当該データが印字対象となる場合はこれをスペースに置き換えて印字し、「外字空白印字リスト」によりこの処置を通知する。

したがって、審査支払等システムで外字を印字する場合は、保険者等と国保連合会との間で外字コードの取り扱いについての調整が必要となる。

※外字コード

シフトJISコード上での外字コード領域には、16進コード…0xF040～0xF9FCの範囲で2バイト目が16進コード…0x40～0x7E及び0x80～0xFCの1880文字が割り当てられている。

(7) 特記事項

① CSV形式ファイル

- ・各レコードは可変長レコードとし、レコードの終わりには「改行コード(16進…0x0DOA)」を設定する。

- ・各項目間には区切り(セパレータ)として「カンマ(16進コード…0x2C)」を設定する。

- ・英数属性および漢字属性の項目はデータの両側を「ダブルコーテーション(16進コード…0x22)」で囲む。ただし、各項目の内容に「カンマ」、「ダブルコーテーション」、「スペース(16進コード…0x20)」および漢字(2バイトコード)を含まない場合は、データの両側の「ダブルコーテ

ーション」を省略することができる。

- ・英数属性の項目の内容に「ダブルコーテーション」を含む場合は、2つの「ダブルコーテーション」を連続して設定する。(1文字の「ダブルコーテーション」として扱われる。)
- ・数字属性の項目の内容がゼロの場合は、「ゼロ(16進コード…0x30)」を設定する。
- ・各レコードには「改行コード」および漢字(2バイトコード)を除き、16進コード…0x00~0x1Fの文字を使用しない。
- ・項目の入力を省略する場合は、データを省略して「カンマ」を連続させる。
- ・全ての桁に意味のある項目の場合は、内容に含まれるスペース、ゼロ等を省略しない。

② 固定長形式ファイル

- ・各レコードは固定長レコードとし、ファイル中最大のレコードフォーマットの長さに合わせてレコードの終わりにスペースを設定する。
- ・各項目間には区切り等をつけず、「バイト数」で示された固定長毎に項目値を設定する。
- ・漢字属性の項目には漢字シフトコードを付加しない。
- ・項目の入力を省略する場合は、英数属性の項目はスペース、数字属性の項目はゼロ、漢字属性の項目は漢字スペースをそれぞれ項目の長さに応じて設定する。

2. 2. 2 磁気媒体作成上の留意事項

(1) 全般

- ・磁気媒体上のファイル名については、審査支払等システムではチェックの対象外。ただし、原則として同一月の交換情報としては同一ファイル名は使用せず、送付元で識別できる名称とする。
 - ・保険者と事業者、異なる保険者及び異なる事業所からの情報を1枚(1巻)の媒体に混在させてはならない。
- (例) 保険者が居宅サービス事業所として請求明細等を提出する場合も別媒体にして提出する。
- ・事業所が他の事業所の媒体作成(送信)を代行して行う場合は、事業所毎に媒体を作成する。
 - ・同一保険者または同一事業所から異なる様式の情報を同時期に提出する場合は、1枚(1巻)の磁気媒体に混在させることも可能とする。

(2) MT

- ・媒体の送付時は、送付票と併せて媒体内に格納されているファイルの一覧を添付する。
- ・オープンリールMT(JIS X6104、JIS X6105)は日本工業規格で幅 12.7mm、9トラック仕様の標準テープを使用する。
- ・JIS X0601 は日本工業規格で一般的に用いられている構成。
- ・媒体エラー及びデータフォーマットエラーが通知された場合は、データの再作成、再送付を行う。
- ・EXCELファイル形式のデータ交換には使用できない。

(3) MO及びフロッピーディスク

- ・媒体エラー及びデータフォーマットエラーが通知された場合は、データの再作成、再送付を行う。

2. 2. 3 伝送使用上の留意事項

(1) エラー時の対応

- ・伝送したファイルの読み込みエラー及びデータフォーマットエラーが通知された場合は、データの再作成、再送信を行う。

(2) セキュリティ

- ・国保連合会と接続した機器及びLAN環境を同時に他のネットワークに接続しない。(ネットワーク同士の相互乗り入れを前提としたLAN間接続は行わない。)
- ・国保連合会との接続は、登録した電話番号から行い、各々のサービス事業所等に交付された事業所IDとパスワードによる認証を使用する。
- ・事業所IDは、請求及び受領に関する事業所届出時に請求方法が伝送の場合、国保連合会より払い出される。
- ・パスワードは、事業所IDの払い出し時に国保連合会側で設定されるが、最初の接続時にサービス事業所側の責任で任意な値に変更するものとする。パスワードの定期的変更はサービス事業所の責務とする。
- ・パスワードを忘失した場合は、迅速に国保連合会に届け出、再発行等の処置を受ける。

2. 3 表記法

2. 3. 1 インタフェース一覧の表記について

(1) インタフェース一覧の内容

交換情報の一覧を表す。

① 項番

- ・業務毎の「項目説明」における各交換情報への対応を表す。

② 識別

- ・交換情報識別番号を表す。

③ 情報名

- ・交換情報の情報名を表す。

④ 内容

- ・交換情報の内容を表す。

⑤ ルート

- ・交換情報の送付元および送付先を表す。

⑥ 周期

- ・情報交換の周期(月次、日次等の区別)または送付時期を表す。

⑦ 媒体

- ・交換情報の送付媒体を表す。

⑧ 出力形式

- ・国保連合会が送付する交換情報の出力形式を表す。

CSV : 伝送または磁気媒体にCSV形式(MTの場合は固定長形式)で出力可能な場合は“○”で表す。

EXCEL : 伝送または磁気媒体にEXCELファイル(Excel97)形式で出力可能な場合は“○”で表す。

帳票形式 : 帳票(紙媒体)として出力可能な場合は“○”で表し、出力される用紙の種別(汎用紙/専用紙)とサイズ等を付記する。

2. 3. 2 項目説明の表記について

(1) 項目説明の内容

交換情報のデータレコードに「データ」として設定する項目の内容を表す。

① 項番

・項目の連番。

CSV形式で交換情報を作成する場合は、この単位でデータの区切り(カンマ)を設定することを表す。

② 項目名

・項目名を表す。

③ 属性

・特に記載が無い限り、以下の形式でデータを設定することを表す。

英数 : 半角の英字、数字、カナ文字1文字をそれぞれ1バイトで表す。半角の英小文字は使用できない。

固定長形式で設定する場合は、左詰で残りはスペースで埋める。

数字 : 0, 1, 2, ~, 9の数字1桁をそれぞれ1バイトで表す。

固定長形式で設定する場合は、右詰で左側はゼロで埋める。

漢字 : 漢字1文字をそれぞれ2バイトで表す。

固定長形式で設定する場合は、漢字シフトコードを付加しない左詰とし、残りは漢字スペースで埋める。

・「英数」項目には漢字(2バイトコード)を混在させない。

・「漢字」項目には半角の英字、数字、カナ文字(1バイトコード)を混在させない。

④ バイト数

・設定するデータの長さをバイト数で表す。

・CSV形式の場合は項目の最大長、固定長形式の場合は項目長(固定長)を表す。

⑤ 内容

・設定する項目の内容を表す。

⑥ 必須入力

・入力が必要な項目を“○”で表す。

・特定の条件により入力が必要な場合は、条件のマトリックスまたは注記として表末に記述する。

⑦ 備考

・設定するデータの形式、コード一覧の参照先等の特記事項を表す。

